

「地域の水と共に生きる！」

- 地域インフラは地域の富 -

『公共インフラは国の富』

内閣府が公表している経済指標の一つに「国富」があります。「富」という言葉からは、金・銀といったものが想像されがちです。内閣府統計の定義によれば、「国富」は、「生産資産」、「有形非生産

国富とは

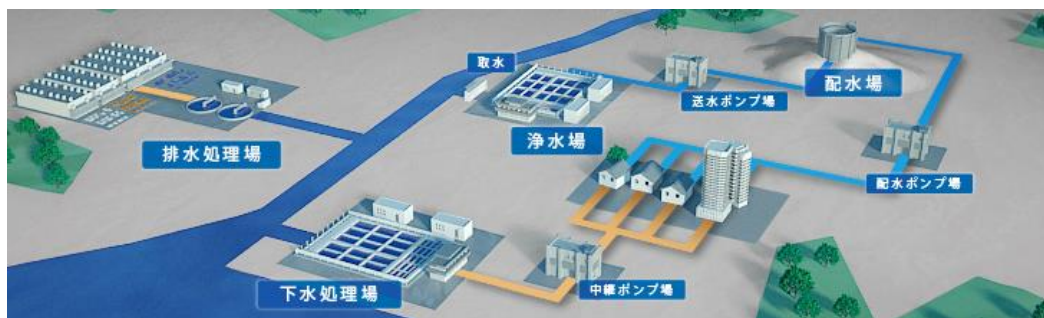
「生産資産」：公共インフラ等有形・無形の固定資産

「有形非生産資産」：土地、地下資源、漁場

「対外純資産」：海外との貸し借りの差引額

の合計金額です

資産」及び「対外純資産」から構成されます。この定義に基づく国富統計は、我が国の政府のみならず、世界各国で共通に使われているものです。「対外純資産」を除き、国富は、国内の生産活動に欠かせない国内にある民間や政府・自治体が保有する資産なのです。公共インフラもその主要な資産の一つです。民間が保有する生産活動の現場である工場などに加え、公共インフラは国内の生産活動を支える「国富」と位置づけられるのです。そして、下水道インフラもその「国富」を構成する重要な「生産資産」の一つなのです。





また、土地や漁場といった「有形非生産資産」も重要な日本の国富にあたります。土地や漁場は人の手で生産することはできませんが、農業や漁業といった産業に欠かせない国の富なのです。そして、肥

沃な農地にも豊かな漁場にも欠かせない資源が水です。

川を流れる水も地下水脈を流れる水も、適切な水循環があつての資源です。下水道インフラは生産活動と水循環を支え、農業や漁業に欠かせない農地や漁場を豊かにする大事な国富であるといえます。



『地域の富である地域のインフラ』

同様のことが地域のインフラにも当てはまります。地域のインフラは地域の様々な生産



活動を支える地域の富なのです。地域の農業にとって、漁業にとって、林業にとって、また製造業にとって、下水道インフラはそれらの生産と水循環を支える地域の富なのです。また、地域の下水道インフラは、「使った水の道」として、「雨水の道」として地域の水循環を支えながら、毎日の暮らしを支えています。経済指標である「国富」の定義にかかわら

ず、まさに下水道インフラは地域の富といっても決して過言ではありません。過去から今に至るまで、そしてこれからもまた、下水道インフラは地域の富であり続けるのです。

『地域の富を未来に繋ぐ為に』

地域の富である地域インフラがあって、地域の暮らしが守られます。地域の富である地域インフラがあって、様々な生産活動による地域経済の繁栄もあるのだと思います。

一方で、地域の富である地域インフラの老朽化は確実に進んでいます。災害大国である日本においては、耐震化対応の遅れも懸念されます。地域の富を守りそして増やす為に、地域インフラの更新整備は欠かせません。更新整備の推進には、技術ノウハウが必要です。人員も必要です。更新整備に要する資金の返済も必要です。必要なものを自治体だけで対応するには様々な制約や課題が考えられます。様々な制約や課題を乗り越え、地域の富を未来に繋ぐことは大変価値あることだと思います。これら制約・課題を乗り越える為に、民間を活用する公民連携は有効な手段の一つに位置



置付けられます。運営権取引も法令化された選択肢です。その他の様々な公民連携の選択肢も自治体要望に応じて増えています。今月のコラムの終わりにあたり、当協会も地域の富を守る一員でありたいと思います。そして、「地域の水と

共に生き、地域の富を未来に繋ぐ！」-そんな思いがさらに深まった次第です。